



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.31
2013年 2月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

ボランティア学生の受け入れ

2月は日本では一番寒い時期だとは思いますが、皆様、風邪などひかれていないでしょうか。こちらカンボジアは乾季のまっただ中にあり、ほとんど雨が降っていません。月初に旧正月を迎え何かと忙しい月でもあります。農場は平常通り作業しています。

1. 農場内の住居の引っ越しをしました。

先月頭、兼ねてより建設中だった住居兼作業場がようやく完成したため、2月1日より日本人職員含め新住居へと引っ越ししました。管理人さん一家にとっても待望の新築の家です。2階建ての2階部分が住居のため非常に風通しと見晴らしがよく、過ごしやすい環境であると感じます。これもひとえに皆様のご協力が有ってことです。管理人さん一家も新築の家に移ることが出来、大変喜んでいきます。また、引っ越しに伴い管理人さん達が今まで住んでいた住居と壊れて使えなくなっていたトイレを管理人さんの長男のアロー君、二男のアラー君とともに解体しました。新住居には炊事場がないため、その廃材を使って炊事棟も建設しました。今後は管理人さんたちと一緒に食事を取る予定です。同じ釜の飯を食べた者同士、より信頼関係が深まり農場運営にプラスになればと思います。

2. 2期作のお米2回目の収穫をしました。

昨年の10月に田植えしたお米を先月収穫したのですが、今月は11月に田植えをしたお米を収穫しました。9月に収穫した時に比べると水田の中に水がありません。穂が実る前に死んでしまいかねないため、後半は週に一回程度のペースで池の水をくみ上げて、管理してきました。収穫後乾燥したものを計量すると、100aあたり籾で100kg。9月に収穫した際に比べると半分ほどになりました。カンボジアの平均の収穫量は籾で10aあたり200kgです。1回目と2回目を合わせれば単純に1.5倍収穫していることとなります。来年度は今年の実績を生かして、より収量を増やし、水を汲む等の管理の手間が省けるように計画を立て、実行していこうと思います。



新住居での生活の様子



炊事棟で調理中の管理人さん



籾を広げているアラー君

3. ボランティアの学生を受け入れました。

2月のカンボジアは日本と比べると30度近く温度差があります。そんな中、日本より農場へと来客がありました。学校法人郁文館夢学園の卒業生で学校の先生を目指している男子大学生が、ボランティアとしてやってきたのです。

教壇に立つ前に開発途上国の現状を知って今後にかかしていきたくて東京のSAJ事務局に希望してきたのだそうです。受け入れ期間は2月3日～3月3日の一ヶ月間。旅費、交通費、食費は本人がアルバイトで貯めたお金を使うということでした。SAJ farmの農場は、テレビ等の娯楽があるわけではなく、インターネットも使えない。例え暑くてもエアコンもなければ冷蔵庫を開けて冷たい飲み物を飲めるわけでもない。ないないづくしの環境です。普段からなんでも簡単にそろろう日本で生活している人が一カ月間も耐えることが出来るのであろうか。こちらとしては受け入れに非常に不安を感じました。

ボランティアで来るため自己責任であるといえどそこまでですが、親御さんから大事なお子さんを預かるのです。私は彼を元気で日本に帰すと決めました。

2月3日の夜、プノンペン事務所の飯田さんとともに空港へと出迎えに向かい合流。タクシーでホテルへと移動中に話を聞くと、一人で親元から離れて遠出をすること自体が初めての行動であり、勢いでカンボジアまで来たとのこと。経路先のタイで間違えて出国してしまい、危うくたどりつけなかったところだったという話がありました。私も初めてカンボジアに入国した際、手続きがよくわからず、勢いに任せていた部分がありましたので、なんとなく彼の気持ちもわかりました。彼がまず感じたのは日本との気温差だったそうです。また、プノンペンが思ったより都会であるにもかかわらず、物乞いの子どもや老人が信号待ちの車に近寄ってくるのには非常にカルチャーショックを受けたと言っていました。

翌日、農場へと移動し、一緒に歩きながら農場の説明をしましたが、なかなか難しかったです。彼に理科の用語や面積の話をしてピンとこないようでしたので、何かと例え話をして説明しました。実際のところ専門用語を使わずに説明するのは非常に難しいですが、逆にいえば自分がそのことをどれだけ理解していて、噛み砕いて説明できるかを試すいい機会でもありました。その後は、レモングラスの収穫、調整、乾燥、裁断、水やり、と一連の作業を一緒に行う毎日です。先に書いた稲の収穫以外はレモングラスの作業中心で動いてもらっています。大学では部活動としてサッカーをしているようなのですが、農作業で使う筋肉はスポーツとは違います。肩の筋肉痛に毎日悩まされているようです。それでも、日本に比べて何もない環境で現地の人たちと一緒に仕事をしたことが、人生の肥やしになればと思います。2月が終われば残り数日ですが、最後は慰労を兼ねて一緒に食事に行きたいと思います。



レモングラス調整中(上)、裁断中(下)のボランティア学生

編集後記

今月は土木作業の多い月でした。そんな中、活躍したのは、管理人さんの息子さんたちでした。あっという間に古いトイレを解体し、2・3日で炊事棟を建ててしまいました。日本で同じ年代の子が同じように仕事出来るかという点で難しいと思います。彼らの生きる力を感じられる日々でした。

上井